

自然教室チームだより

私市植物園自然観察会 実施報告

3月11日(水)とても寒い一日でしたが、思いがけず17名という多数の方に参加していただき、自然観察会をしました。

お目当ての「春の妖精たち」はちょっと時期が早くてあまり見られませんでした。それでもキクザキイチゲ、ミスミソウ、オウレン、セントウソウなどが咲いていました。カタクリはまだツボミでした。

そこで重点を「冬をたくましく生きる植物たち」に移し、植物たちの工夫を観察しました。

その一つとしていろいろな冬芽、芽鱗痕、葉痕を間近にみました。その仕組みや残された不思議な形にびっくりしたり、感心したりしました。

またロゼットで冬を過ごす草たちをいくつか手に取って見ながら、これは何だろうと意見を言いあって観察をしました。

更に、寒い時期でも頑張っている草木の中から「ヒメサイカチ」「オオイヌノフグリ」「ホトケノ



ザ」のインプリ(説明・解説)を3人の方に担当していただき、その特徴がよく分かりました。

最後はネイチャーゲーム「森の色合わせ」です。与えられた色に会う自然物を見つけてくるゲームです。あまり見つからないだろうと予想された色の自然物も、皆さんのすごい観察力でいっぱい発見されました。自然界には本当にいろいろな色があるんだなというのが実感でした。

少々寒いのが難点でしたが、みんなが参加し、教えあうという楽しい観察会でした。(倉田 晃)

校庭の自然観察会で
活動してみませんか!

「タンポポの笛が鳴ったよ!」
「へえ〜 木の葉っぱに匂いがあるんだ!」「この食べられるドンダリ おいしかった!」 子供たちの楽しそうな声が響く。「何で?」「どうして?」質問もいっぱい飛んでくる。



虫取り網を持ち、バッタやチョウ、トンボを求めて、校庭や近くの野原を走り回る。取った昆虫を最初はこわごわと触る。そのうちに平気で手をつかみ「おっちゃん こんなのを捕まえたよ!」と自慢する。いずれも校庭の自然観察会の風景である。

ご存じのとおり子供たちが自然に触れる機会は驚くほど減ってきた。そこで、自然と接触する楽しさ、自然遊びの楽しさを子供たちに伝える活動を、私たちシニア世代がもっとやってはどうかということで、小学校の校庭の自然観察会が始まった。子供たちがもっと自然の不思議や魅力に触れ、自然に親しんでほしい、自然が好きになってほしいとの願いを込めて始まった活動である。

私たちは何も難しいことを教えようとしているわけではない。子供たちと一緒に

①「見る」「さわる」「匂いをかぐ」「聞く」「味わう」という五感を使って、身近な自然に接する

②さまざまな自然遊びを体験する

③ちょっとした自然工作を楽しむ



という活動をしている。そして大切な事は私たち自身が活動を楽しんでいるということである。

自然教室チームの活動に賛同し、一緒に進めていっていただける方をお待ちしている。質問を含めて、スタッフに声をかけていただきたい。

(担当: 倉田 晃 辻本 信一 平岡 久美)